

行書のQ&A その2

山梨大学教授

宮澤 みやざわ正明 まさあき

前号に続いて、「楷書と比べて行書はどこがどう違うのか。また、行書の書き方がよくわからないのだが。」の問いにお答えします。

行書では、速く書くための工夫として、点画の形を変えて書くことがあります。今号では、「この」「点画の変化」について取り上げます。

点画の変化

点画が変化する例としては、前号で、「点画の連続における終筆の変化」でも紹介しました。今号での変化とは、終筆の変化ではなく、形そのものがまったく変わってしまつものを指しています。横画・縦画・反り・折れには丸みや終筆の変化は見られるものの、それらの形が別の形に変わることはほとんどありません。しかし、左右の払いや曲がり、まったく別の形に変化するものがあります。例を挙げてみましょう。

a 右払いの変化

右払いは、斜め点の送筆部を長くしたような形(便宜

に長く書かれる場合は終筆の変化のみで、形そのものが長点に変化することはほとんどありません。

b 左払いの変化

左払いは種類が多だけに、右払いに比べてその変化も多様です。

横画に変化する

「風・北・仰」のように、左払いが短い場合には横画に変化します。ここで、注意しなければならないのは、これらは、楷書のいわゆる許容の書き方に即した変化であり、「千・秋」の二画面のように横画で書くことが許容されない場合は、行書でも横画には変化しないということです。見方を変えると、楷書のいわゆる許容の書き方は行書の書き方に影響を受けていると言えるのです。

風 風 秋 秋 秋

点に変化する

「保・集・業」などの「木」の部分は、狭いスペースに書かれるので、左払いは点に変化します。この場合、右払いもまた点に変化します。同様に、「新・親」の場合も点に変化します。これらの変形は楷書の許容の書き方でもあります。

的に「長点」と名付けます(に変わります。「公・会・木・人・大・友・衣」のように、左右の払いが文字の主要部を占めている場合の右払いは、長点に変化することがあります。

公 木 大 衣

長点

「走・足」も左右の払いが文字の主要部になっていきますが、右払いが長いために長点にはなりにくいようです。ただし、点画を省略する形を用いる場合は、次のように長点に変化します。

走 走 足 足

省略形

省略形

また、「道・遠・導」などの「しんにょう」や「延・建・健」などの「えんにょう」のように、右払いが単独

保 業 新

縦画に変化する

「用・角・赤」のように、縦画と対応関係にある左払いは縦画に変化することがあります。少しでも近道を通るつとめる工夫がここでも見られます。

用 角 赤

c 曲がりの変化

狭い空間に書かれる曲がりは点に変化します。代表的な文字は「空」です。また、「改・望」などの曲がりは折れの「レ」形に変化します。なお、「元・光」などに見られる大きな曲がりは、「ん」形に変化することもあります。

空 改 光

点画の変化の指導にあたっては、いわゆる許容の書き方との関連や、点画が変化することで速く書けることを理解させるとよいでしょう。また、毛筆で変化形を確認した後、硬筆で熟語や短文を書くことにより習熟させる効果的です。